

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 北九州市立菊陵中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒802-0023
北九州市小倉北区下富野一丁目2番1号

E-mail kikuryo-j@kita9.ed.jp
Website http://www.kita9.ed.jp/kikuryo-j/

幼児児童生徒数 男子 101名 女子 118名 合計 219名
幼児・児童・生徒の年齢 13歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「帰国・外国人生徒と一般生徒が共に高め合える教育活動を通して、持続可能な社会の実現に向けての実践的態度を養う国際理解学習」を活動テーマとして、ESDを共生社会へ向けた課題解決のための教育と捉え、ESDの実践を通して生徒が国際社会でたくましく生きるための力の育成を目標とした。

具体的には、JICA研修員との交流会、国際交流「外国の文化を知ろう」、「届けよう、服のチカラ」プロジェクト、商業体験学習、農業民泊体験を柱に、①日本に滞在する外国人と交流する活動、②外国の文化を知る活動、③国際貢献に係わる活動、④販売体験活動や農作業体験活動、を行った。

① 日本に滞在する外国人との交流に係わる活動

「JICA研修員との交流会」では、一年生がいくつかのグループに分かれ、日本の伝統的な文化(書道・折り紙・剣道・けん玉等)をJICA研修員に伝えていく活動を行った。この活動を通し、外国人とのコミュニケーション力や異文化の立場に立って考える力や行動力を育成することができた。

② 外国の文化を知る活動

文化発表会に、福岡県国際交流協会より講師（インドネシア）を招聘して、外国の文化にふれる活動を行った。事前に講師から帰国外国人を含む生徒・職員・有志にアンクルンという楽器の演奏を指導してもらい、曲を披露することができた。生徒は他国の文化や風物等に親しみながら、異文化を理解する態度を身に付けると同時に、国境を越えた様々な課題について学んだ。

③ 国際貢献に係る活動

ユニクロの「服のチカラプロジェクト」の活動に取り組んだ。まず各学年で「人間らしく生きる」をテーマに学習会を実施し、その後ユニクロの社員による出張授業を受けた。生徒は貧困や難民問題等についての知識を身に付けると同時に本プロジェクトへの活動意欲を高めることができた。その後、実行委員会メンバーを中心に、①ポスター・回収箱・協力依頼文等の制作、②全校集会・体育大会・文化祭等における協力の訴え、③関係機関（市民センター・小学校・幼稚園）への協力依頼や回収作業、④回収した衣服の整理発送等を行った。生徒達は、この取組を通して、「一人の小さな力を結集することで、世界の平和や福祉に積極的に貢献できる」ことを学ぶことができた。

④ 販売体験活動や農業体験活動

一年生生徒は、本校校区内にある旦過市場にて販売体験を行った。日頃は消極的な生徒がお客さんに一生懸命声をかけていたり、外国からの観光客に一生懸命英語で接客したりする姿が見られるなど、体験を通じて、将来の職業生活を学ぶ良い機会になっていた。また、二年生は、大分県で農業体験活動を実施した。農作物の生産過程を体感することを通し、農業に従事する人々の意識や苦労などを知ると同時に、現代社会で縮小し続ける第一次産業の実態と将来に向けた課題を考えていく良い機会になっていた。



① JICA 研修員との交流会



②在日外国人の講師を迎えて



③服のチカラプロジェクトポスター作り



④農業体験学習中

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(学校行事)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ・人権教育教材集 新版いのち 中学校版（北九州市教育委員会）
- ・「この人はなぜ？ いま、日本からできること」（UNHCR 駐日事務所）
- ・「2017届けよう服のチカラP UNHCR 動画」
- ・「2017届けよう服のチカラP ヨルダン難民キャンプ動画」
- ・「2017届けよう服のチカラP 報告DVD」

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクール関係の諸活動は、主に学校行事や総合の時間の中に位置づけ実施している。年度当初の職員会議で、年間行事予定表に日程を確定し、全教職員で共通理解をする。それぞれの担当者は指導計画を立案し、月例の職員会議で提案・審議した後、実施に向けた準備に入る。指導内容・指導方法の工夫改善に関しては、担当者個人の立案となるので、どうしても固定化してしまう傾向があり、十分であるとは言い難い。そこで早急に校内にESD委員会を立ち上げ、事前に複数の目で活動内容の見直しや新しい指導過程の検討を行う体制を作る必要がある。学級単位の活動では、グループワークやディスカッション等、アクティブラーニングの手法が多く取り入れられるようになってきている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校は小規模校であり教職員数が少ない。そのため国際理解教育や社会体験活動を実施するにあたって人的に厳しい環境にある。そこで、①校内の誰もが指導を担当できる経験知を継続的に積み上げていくこと、②校外諸団体の人材や指導にあたってのノウハウを最大限活用すること、が重要と考える。現在はESDの各活動の担当者をその場で決め、ぎりぎりの状態で運営しているが、今後は校内にESD委員会を立ち上げ、学校全体の動きを提案・調整していくようにしていく必要がある。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

12月に生徒・教職員・保護者を対象にした学校評価アンケートを実施した。自由表記による「本校の良い所」では、「国際教育に取り組んでいること」や「国際教室があつていろんな人と交流できる」など約15パーセントの意見が交際理解教育に関連する内容となっていた。また、また学校評議員など外部関係者から、本校の国際理解教育への取り組みに関して、広く理解されていることから、ユネスコスクールとしての本校の取り組み徐々に定着・向上していると考えている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本年度より本校がユネスコスクールに認定され、国際理解教育を中心に取組を行っていることは、学校通信などにより周知してきた。本校では地域に広く公開している学校行事への参観者が多く、本校のユネスコスクールとしての活動を直接目にする機会も多い。また「服のチカラP」では、生徒が直接に地域小学校・幼稚園・市民センター等に足を運び、広く協力を要請してきたことで、多くの人から本校の活動に対して賛同や協力を得ることができた。これらが循環的に生徒の次の活動意欲に繋がっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

本校では、国際理解教育の諸行事を推進していく上で、JICAや福岡県国際交流協会と連携・協力を行っている。また、「服のチカラプロジェクト」ではユニクロから講師の派遣などの協力、さらに校区内の小学校・幼稚園・市民センター等、地域の団体には多くの協力や服の寄贈をいただくことができた。現在の所、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアム等との交流はないが、将来的に連携していきたいと考える。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

本校は本年度より、ユネスコスクールに認定されたばかりであり、国内外の他ユネスコスクールとの交流やネットワーク作りはまだできていない。しかしながら、岡山県の中学校から本校のESD活動の視察を受けるなど、今後、交流の輪はひろがっていくものと考えている。また、ESD大会への参加やインターネットを通じて、他のユネスコスクールの多様な実践から情報を集め、本校の実践を拡げていこうとしている段階である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

二年目の「服のチカラプロジェクト」では、①生徒実行委員会を動かし生徒の自主的な活動を充実させること（KJ法を活用した話し合い活動の充実・生徒自身による地域への情宣活動）、②地域諸団体や保護者との連携を広げていくこと（文化祭・体育祭等学校行事を活用した情宣活動、ポスターや回収ボックス設置場所の増設）、に重点を置くようにした。成果として、回収数が約50%アップしたこと。また、話を伝え聞いた地域住民からの寄贈や生徒への励ましの声を多くいただいたことである。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度の活動としては、本年度の活動実績を基盤とし、以下の四つの活動を柱に、内容を深化・充実させていく予定である。

1、日本に滞在する外国人との交流に係わる活動

「JICA研修員との交流会」で、日本の伝統的な文化を外国人研修員に伝える活動を通して、異文化の視点で考える力や行動力を育成する。

2、外国の文化を知る活動

文化発表で、福岡県国際交流協会の講師による講演を行う。外国の文化や社会について広く深く学ぶことで、異文化を受け入れる態度を養う。また貧困や環境など世界レベルの様々な課題について知り、積極的に解決しようとする態度を養う。

3、国際貢献に係る活動

ユニクロの「服のチカラプロジェクト」の活動を継続する。活動を通し、貧困や難民問題等の知識を身に付けると同時に、他と協力して、世界の平和や福祉に積極的に貢献しようとする積極的な態度を養う。

4、社会体験を通し、人類の課題を知り解決しようとする態度を養う

職場体験や農業体験等の体験活動を通し、職業に従事する人々の意識や苦勞などを知ると同時に、現代社会における生産や消費の実態や課題について考えていく。また、地域清掃などの活動を取り入れ、環境問題について関心を持ち、自らの生活を見直していく態度を養う。

※生徒が多様な活動によって獲得した知識や経験を、教師が各教科や領域で意図的・計画的に深化・統合させ、自分の考えや意思を論理的に表現する力や世界平和に貢献していこうとする意欲・態度を育成していくようにさせたい。「活動」に「知」の裏打ちを行うことが課題と考える。